

特集

直腸癌局所再発に挑む 最新の治療戦略と手術手技

近年、高齢化に伴い直腸癌が増加している。他癌腫と比べても、外科的切除の効果が高い大腸癌であるが、直腸癌手術においては、術後局所再発という大きな問題点を抱えている領域でもある。ひとたび局所再発を起こすと、他の遠隔転移と比べても著しく患者のQOLを損なう場合が多く、そのマネジメントは外科医にとって必要不可欠である。一般に外科的切除のみでの治療成績は悪く、集学的治療が必要となる場合も多いが、一概に局所再発と言っても、再発部位や前治療の影響など多種多様で、その治療方針の選択に難渋することが多い。最近では薬物療法の進歩や重粒子線治療症例の蓄積など、外科的切除以外の治療モダリティの効果やメリット・デメリットについての知識も、外科医がアップデートしておく必要がある。

そこで本特集では、直腸癌局所再発に関して外科医が身につけておくべき知識と技術を解説いただいた。